

2024年2月9日 Vol.216

好発進した令和6年のIPO

日経平均やTOPIXが勢いよく上昇する中で、取り残された格好のグロース250指数の頭重い展開を横目にしながら令和6年のIPO市場の取引が7日より開始されました。このところ話題となりつつある3Dプリンターをモノづくりに活かしていくためのコンサルティング企業であるSOLIZE（5871）が今年の第1号。公開価格1470円に対し初値は2020円、公開価格に比べ37.4%の上昇でスタートしましたが、その後2520円まで急騰しストップ高を演じました。同社はスタンダード銘柄で比較的業績が安定していて有配でもある点でIPO銘柄に関心をお持ちの投資家に関心を持たれたものと拝察致しておりますが、これに続いて8日には核酸創薬のプラットフォーム企業であるVeritas In Silico（略称VIS・130A）が第2号として取引が開始され公開価格1000円に対して初値は2001円、公開価格比2倍で寄り付き、そこからストップ高となる2501円で終わりました。

このように好発進した令和6年のIPO市場ですが、当然今後の株価は過去の傾向から波乱の展開が予想されるものの、この後22日に登場する製造業向けAIソリューションを提供するVRAIN Solution（ブレインソリューション・135A・グロース）にも多少でも良い刺激を与えるものと想定されます。全体相場の上昇が続く中で個別には大半の銘柄が頭重い展開か下値模索を続けていますので、こうしたIPO市場に新たな登場した銘柄の株価が堅調に推移していると出遅れの中小型銘柄にも関心が出てくる可能性もあります。問題はIPOして間もない企業の業績不安です。多くはIPO前に足下の業績を示した形で出て参りますが、その後の不安定な業績変動が株価の波乱要因となりがちです。

例えば昨年7月28日にグロース市場にIPOしたデンソーを主要顧客とするEV向け電子部品の信頼性評価サービスのクオルテック（9165）の場合など今6月期業績を期初大幅な増益で見込んでいたのに対して2月7日に2Q発表を前に大幅下方修正を発表し投資家の投げを誘いました。公開価格2540円を上場直後に少し上回った時期がありましたが、その後は半導体関連企業としての投資家の期待をよそに下落傾向を見せており、成長志向の企業にも不安定さが感じられます。このようにIPOしたばかり企業はIPO後の株価の下落傾向を横目に不透明な自社業績をやや楽観的にみようとしたりする傾向にあることや次の成長のために先行投資に動くことが多く、短期的な業績はその多くがネガティブなトレンドになりがちです。しかもその詳細説明などは投資家には伝わらず株価の下落を強めさせる要因となります。

好発進したIPO市場ですが、個人投資家が主に参加しているグロース銘柄が復活するためには、トヨタやホンダに負けないような強烈な成長志向のリーダー的な企業が必要です。そうした企業の登場をこれからも心待ちにしたいと思っております。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）